

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 26 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2011～2014

課題番号：23520495

研究課題名(和文) フランス語コピュラ文の解釈と属詞の冠詞の有無に関する研究

研究課題名(英文) Study on the interpretation of French copular constructions lacking the article in the predicate noun.

研究代表者

坂原 茂 (Sakahara, Shigeru)

東京大学・総合文化研究科・教授

研究者番号：40153902

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究はコピュラ文の属詞の位置での冠詞のある・なしによる意味の違いを、広範なデータ収集にもとづく詳細な記述を行い、説明力のある冠詞の意味論を構築した。研究対象を文学作品にまで広げ、Louis-Ferdinand Celine: Guignol's Band II における、Je suis de feu! ... Je suis lumiere! ... Je suis miracle!のような無冠詞属詞の用例を研究し、コピュラ文の属詞での冠詞使用が、一般的に受け入れられている理論より遙かに複雑な意味の差異を引き起こすことを実証した。

研究成果の概要(英文)：We analysed the copular constructions with a bare predicate noun and constructed a powerful semantics of articles that can explain a subtle difference of meaning, depending on whether the predicate noun has a determiner or not. Our data cover 20th century French literature such as Louis-Ferdinand Celine's Guignol's Band II (ex. Je suis de feu! ... Je suis lumiere! ... Je suis miracle!) and showed that the usage of predicate nouns in copular sentences brings about far more subtle and complex difference in meaning than the accepted theories predict.

研究分野：フランス語学

キーワード：コピュラ文 冠詞 属詞

1. 研究開始当初の背景

フランス語では、Je suis femme(私は女だ)のように述語名詞(属詞)に冠詞のないコピュラ文もあれば、Je suis une femme(私は女だ)のように述語名詞に冠詞が現れるコピュラ文もある。日本語では、どちらも「私は女だ」と同じ文になってしまい、違いが分かりにくい。述語名詞に冠詞がない場合は、名詞句は形容詞化され、冠詞がある場合は、名詞句は名詞句として働いていると説明される。この説明はあまり明確でない上に、細かく見ると、冠詞があってもなくても、用法にあまり違いのないような例が多数見つかる。

そこで、属詞に冠詞があるかどうかで解釈にどのような違いがあるかについて、フランス語で書かれたフランス語文法書がどのように説明しているかを調べてみると、フランス語話者にとっては当たり前すぎるのか、あまり役に立つことは書かれていない。調査の範囲を広げ、似たような用法がある他のロマンス語の言語の文法書にあたってみたら、英語で書かれたカタロニア語文法書 Max W. Wheeler, Alan Yates and Nicolau Dols. 1999. *Catalan - A Comprehensive Grammar*. Routledge. に、以下のような興味深い指摘があった。この指摘が正しければ、カタロニア語では、フランス語と異なり、述語名詞に形容詞的解釈をさせたいときは、冠詞をつけることになる。

A predicative noun used metaphorically, however, entails the use of the indefinite article; És un inquisidor 'He's an inquisitor'(by nature, not profession), Ets un pispa 'You're a sneak thief'(e.g. said when someone has 'borrowed' something not theirs).

(メタファで使われた述語名詞は、不定冠詞の使用を必要とする。És un inquisidor「彼は審問官だ」(職業ではなく、生まれつきの性格によって), Ets un pispa「お前はこそ泥だ」(たとえば、誰かが自分のものでないものを「借りた」ときに言われた文として))

フランス語では、Je suis artiste(私は芸術家だ)のように、属詞の位置に職業を表す無冠詞の名詞が現れた場合、その職業の人の意味にも、その職業に相応しい資質をもった人の意味にもなる。また、属詞に冠詞がついた場合でも、どちらの解釈も可能である。たとえば、Je suis un artiste(私は芸術家だ)は、Je suis artiste 同様曖昧で、話し手が職業的芸術家であるという解釈と、資質、気性、行動などが芸術家らしいという2つの解釈がある。程度副詞が現れる Je suis complètement un artiste(私は完全に芸術家だ)や Je suis un vrai artiste(私は本物の芸術家だ)には、2番目の解釈しかない。もち

ろん、この場合も、職業的芸術家であって構わないが、これは、Je suis complètement un artiste や Je suis un vrai artiste といった文が話し手の職業を規定しないので、その可能性を排除しないからである。

これから、コピュラ文 A être B では、属詞 B に冠詞がついてもつかなくても、A が B が指す集団の一員であるという解釈と、B が指す集団に特徴的な特質をもっているという解釈のいずれもが可能であることが分かる。

以上のように、属詞の冠詞の有無がコピュラ文の解釈にどのような違いをもたらすかは、非常に複雑・微妙な問題で、詳細な検討が必要である。

2. 研究の目的

フランス語の冠詞システムは、それを外国語として学ぶ日本人にとってだけでなく、母語話者であるフランス人にとっても難しい。本研究の目的は、以下の3点視野に入れ、属詞位置での冠詞使用の総合的理論を構築することであった。

- 1) 名詞句の限定表現全体の中での冠詞の役割分担
- 2) 冠詞システム全体の中での定冠詞・不定冠詞・無冠詞の役割分担
- 3) 属詞の意味機能決定するコピュラ文の意味論

坂原は、「日仏名詞限定表現の対照研究」(平成18-20年度科学研究費補助金一般研究(C))において、フランス語定冠詞名詞句と日本語裸名詞の用法の類似性が、両言語の名詞句限定表現全体とその体系内部における機能分担の視点から説明できることを示した。この研究の延長として、本研究ではコピュラ文の属詞の位置での冠詞のある・なしによる意味の違いを、広範なデータ収集にもとづく詳細な記述を行い、説明力のある冠詞の意味論を構築することで説明した。

本研究では、主として主語が人を表し、属詞が職業・国籍・身分・親族関係を表すコピュラ文を対象をしばって、属詞の有無でどのような解釈の違いがあるかを研究した。また、この研究の応用として、日本人フランス語学習者に対して、属詞位置での冠詞使用の理解を容易にする説明法を考案した。

3. 研究の方法

かなりの規模のデータ収集を行い、それに基づき理論構築を進める。コーパスを使った用例収集では、コピュラ文がごく普通の文なので用例はいくらでも集まるが、本研究の性質からして、ほとんど役に立たない例の整理に時間をとられるおそれがある。そこで、コー

パス利用の用例採集は参考程度にとどめ、自分で文学作品、新聞などを読みつつ、有意義な例の採集に努めた。

また、フランス語の属詞研究とは言え、この問題についてはスペイン語を始めとして、他のロマンス語のデータが対照事例としてきわめて役に立つことも分かっているので、研究協力者を探し、小規模ながらスペイン語の例も採集した。本研究の最初の2年間は主にデータの収集とその分析に当て、残りの2年間で包括的な理論化を進める。最終年度には、研究対象を文学作品にまで広げ、Louis-Ferdinand Céline: Guignol's Band IIにおける、Je suis de feu! ... Je suis lumière! ... Je suis miracle! のような無冠詞属詞の用例を研究した。

また、従来の冠詞研究についての代表的研究を収集し、整理・分析した。

4. 研究成果

コピュラ文 A est B は、Bが無冠詞名詞のときは、qu'est A? (「Aは何か」)という質問に対する回答と解釈され、BがAの属性を特定する文と解釈される。一方、Bが冠詞つきの名詞句のときは、コピュラ文は、Qui est A? (「Aは誰か」)という質問に対する回答と解釈され、BがAを個体として特定する文である。

たとえば、ある人(A)が、友人(B)がある会社で働いているのは知っているが、その会社で何をやっているのかやどういう地位に就いているかを知らないで、次のような質問したとしよう。この場合、Bの返答では、述語名詞に冠詞は要らない。

(1) A: Qu'est-ce que tu fais dans cette societe?

B: Je suis {directeur/*le directeur} de cette societe.

(A: お前は、この会社でなにをしているんだ?)

B: 私はこの会社の社長だ)

一方、ある会社で深夜に建物内を見回っていた守衛が不審人物を見かけて詰問したが、詰問された人は遅くまで残って仕事をしていたこの会社の社長であったとしよう。この場合、社長の返答では、述語名詞に定冠詞が必要である。

(2) 守衛: He, vous! Qu'est-ce que vous faites la? Qui etes-vous?

社長: Je suis {*directeur/le directeur} de cette societe.

(守衛: おい、あなた! ここでなにをしているのですか? あなたは誰ですか?)

社長: 私はこの会社の社長だ)

日本語では、職業を聞かれた場合(「あなたの職業は何ですか」)も、誰であるかを聞かれた場合(「あなたは誰ですか」)も、回答はいずれも、「私はこの会社の社長だ」となるので、日本語話者にはこの違いは分かりにくい。この問題に対して、コピュラ文の用法を、記述と同定に分け、両用法の違いを詳細に分析し、記述用法では属詞に冠詞が現れないが、同定用法では属詞に冠詞が必要になることを示した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

坂原茂. アスペクト表示の複合動詞「Vて来る」と空間時間メタファ. 『國語と國文學』文法研究の現在. 53-62. 平成24年11月特集号. 通巻1068号(第89巻第11号). 東京大学国語国文学会.

〔学会発表〕(計 3 件)

坂原茂. カタロニア語 anar(行く)と日本語「来る」のアスペクト表示. 「時空間・論理領域の間の類比マッピングの形式モデル化とその検証」研究集会. 2014年8月16日. 京都大学

坂原茂. トートロジの語用論と分類. 2014年7月12日. 文法学会. 東京大学

坂原茂. トートロジの語用論とトートロジの分類. 2012年9月23日. トートロジ・ワークショップ. 東京大学

坂原茂. Dynamism of Category Reorganization in Tautology. 2011年11月23日. 「時空間・論理領域の間の類比マッピングの形式モデル化とその検証」研究集会. 京都大学.

坂原茂. Dynamism of Category Reorganization in Tautology. 2011年9月14日. ジュネーブ大学.

〔図書〕(計 1 件)

坂原茂(編著) 『フランス語学の最前線 1』ひつじ書房. 2012. (坂原茂. 「フランス語コピュラ文の解釈と属詞の冠詞の有無」. pp.1-52. 収録)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

坂原 茂 (SAKAHARA, Shigeru)
東京大学・大学院総合文化研究科・教授
研究者番号：40153902

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：